# 探訪 新ライフスタイル

## ライフスタイル

米オレゴン州ポートランドは持続可能な街づくりで有名だが、背景には人口当たりのボランティア団体数が全米1位という実態がある。盛んなボランティア活動から相手を思いやる利他の心の根が、幹や木となり、住民のライフスタイルの一翼を担っている。寄付活動（ドネーション）も日常に根付き、富裕層だけでなく一般の人も積極的だ。その多くが恵まれない人たちへの援助や、博物館、美術館などの公共施設や公園の維持管理費など、日本であれば税金で賄われているような活動に使われる。

ポートランドらしいライフスタイルを表す2つのリサイクル業態がある。1つは「Good Will（グッドウィル）」。不要なものを無償で引き取り、欲しい人に安く販売するNPO法人が運営する巨大リサイクルショップであり、全米で3200店舗以上展開している。衣料のほか、靴、雑貨、カバン、本、家具、食器、おもちゃ、家電など、どんな不用品でも引き取り可能だ。

もう1つが「The ReBuilding Center（リビルディングセンター）」。1998年、ボランティアの手でスタートしたNPO法人が運営する廃材再利用センター。改装や解体で不要になった木材、窓、ドア、バスタブ、タイル、照明器具、金具などを無償で引き取る。

ポートランドでは住民が古いものに味があり、個性的だと認識してDIYでインテリアとして再利用することが多く、リサイクル、リユースの流通が盛んだからだ。ドアは20～50ドル、洗面シンクやバスタブも50～100ドル前後で購入できる。グッドウィル同様に社会的なハンディキャップのある人を積極的に雇用し、職業訓練の場としての役割も果たしている。

環境省では日本国内の廃棄物処理・リサイクル市場規模は約4兆円と算出する。今後はリサイクル品でリフォームし、店舗で生かすことが盛んになりそうだ。

## 米ポートランドの2つのリサイクル

# 障がい者・ホームレスの職場に

リビルディングセンターには不要になった洗面台などが並び、リフォームの機会を待っている

商品別に分けて陳列された店内には、思わぬ掘り出し物や宝物を見つけることもあり、新品同様のショルダーバッグを8ドルで購入した。イートインスペース併設店舗もあるなど利便性も高い。グッドウィルでは障がいのある方やホームレスなど、社会的に不利な状況にある人たちを雇用し、社会の一員として育てる使命がある。環境に優しく、人道的なビジネスモデルがつくられ、かつ生活者もリサイクルを楽しむといったライフスタイルが育まれている。

16年、長野県諏訪市にて日本版リビルディングセンターが設立され、廃材活用を文化にすることを促し、再び誰かの生活を豊かにする仕組みに挑んでいる。経営者の東野唯史氏は「古材を引き取るレスキューが浸透し、時代のニーズとフィットした手応えを感じる」と語った。社会性と事業性が合致したリサイクル業態は、持続可能な街づくりと新たなライフスタイル形成につながると確信する。

（商い創造研究所代表　松本大地）